

Title	合理主義者のやさしさ
Sub Title	
Author	倉沢, 康一郎(Kurasawa, Koichiro)
Publisher	慶應義塾大学法学研究会
Publication year	1999
Jtitle	法學研究 : 法律・政治・社会 (Journal of law, politics, and sociology). Vol.72, No.6 (1999. 6) ,p.101- 102
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	津田利治先生追悼記事
Genre	Article
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00224504-19990628-0101

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the Keio Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

られ、また、書きとめられるであろう。

最後になったが、商法研究会のメンバーは、授業が終わって休暇に入る頃、しばしば先生のお宅に大勢でお邪魔して、学校では聞けないようなお話をうかがった。その折も数時間に及ぶので、私どもが腰をあげようとする、先生は「まだ、いいよ」とおっしゃり、また、少し話が続くこともあった。その席に、いつも先生のご長男の奥様が運んで下さった「うなぎのお重」が暖かくおいしかったことにお礼を申し上げたい。

名誉教授 高鳥正夫

合理主義者のやさしさ

津田先生の鎌倉由比ヶ浜のお宅へ初めて伺ったのは、昭和三五年（一九六〇年）に私が商法の副手になって間もなく、最初の商法研究会での報告を商事判例研究の原稿にまとめ、それを見てもらうために持参したときだった。教えられた道順どおり八幡宮の一の鳥居近くの路地を入れて行くと、周囲のいかにも鎌倉らしい瀟洒な邸宅の中で、津田先生のお宅はすぐそれと判った。何かえもいわれずユニークなのである。

無難な私のことだから、多分時候の挨拶の代わりに、「何だか不思議な感じのする家ですね」とか何とかいったのだと思う。先生は開口一番、その感じの源を説明してくれた。というのは、生来の固疾たる喘息に対処するために芝から鎌倉に居を移すにあたり、津田先生ご自身が家の建築に立ち合われたのだそうだが、機械製材でキ

チンと寸法の揃った材木を柱に加工する際に、大工がそのすべてを日本建築の作法どおりの長さに切ろうとしているので、先生がその大工に、「このまま切らずに、上から造作の尺寸を採ってくれ」と指図されたとのことなのである。その結果、奇妙に下半身の長い、背高ノッポの木造二階建ての家が建ってしまったというわけである。「だからキミ、床下が物の貯蔵などに使えるぜ」と先生は得意であった。だいたい、切った部分の材木は何の役にも立たないところが、お気に召さなかったらしい。根っからの合理主義者なのである。

私があるとき、「でも天狗の棲み家みたいですね」と、本当にいったかどうか記憶は定かではないが、そんな感想をもったのは、その頃は津田先生を法律学の鞍馬天狗だと思っていたからである。

その頃——昭和三〇年代——、法律学界はいわゆる『法解釈学論争』による動乱の巷であった。イデオロギーという名の情緒的正義感にたよる法学新選組のバツコする野に、津田先生はひとり白馬を駆る騎士のように私

には見えた（つい先年、生前最期にお目にかかったとき、先生は初めて「実はあの頃は淋しかった、辛かった」といわれたが、私はそのとき、ふたたび白馬の騎士の疾駆を見た気がした）。

私の最初の判例研究の原稿は、私の目の前で、見るも無残に斬って棄てられた。この鞍馬天狗には、「私は味方です」などといっても通じない。しよげきって、席も立てずに黙っていた私に、津田先生は、「お茶を淹れるのは面倒だから、ビールでも飲むか」とつぶやかれながら、ビールとコップを持ってきて下さった。のどがカラカラで、慌ててひと息にビールを飲んだ私を確かめてから、先生は「二、三年前のビールだけ大丈夫だったかね」とイタズラっぽくいわれた。

それは、先生のウソだった。津田先生にとつて廢材や不肖の弟子に対するやさしさがつい表に出ることは、テレズにはいられないことがらだったのである。

名誉教授 倉沢康一郎